

福島県相馬市尾浜の真言宗豊山派摸取院（鈴木弘隆住職）では震災三回忌を迎えた11日、大津波が押し寄せた地域を見渡す境内の一角に聖観世音菩薩像を建立して開眼供養を営んだ。境内前の丘陵地では、檀信徒ら地域住民が入居する復興住宅の建設工事が着工。寺院を中心とした地域「ミロ二ティー」が復興へと歩み出している。

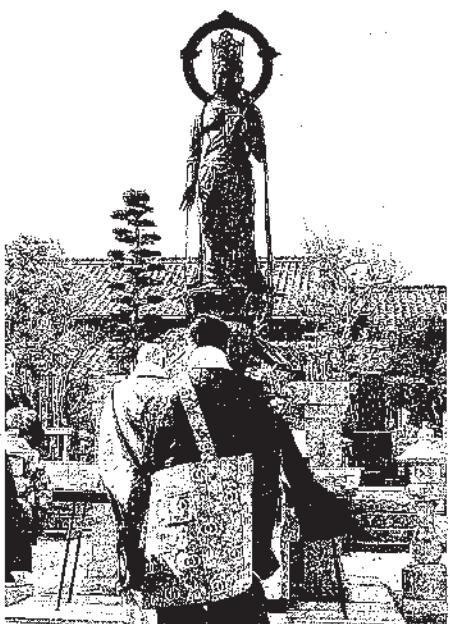
津波は高台にある摸取院の2～3メートル手前まで迫ってきた。その猛威で檀信徒約170人が立つていて、その前に太く強く刻まれた「糾」は、加藤精一管長が揮毫した。

開眼供養には大勢の地域住民が参列。焼香した

相馬市
撫取院

觀音像を開眼

住民主導で地域復興へ



津波が押し寄せた地区を見守る観音像。各地から豈山派僧侶30人が集まり開眼供養を厳修した

後、「鎮魂の鐘」を撞いた。 鈴木隆敷名管住職は「ご
とに観音様を建ててもり つただけでありがたい」

く入居可能だといふが、申しこみ希望者が数に追い付かない状況がある。漁港がある原釜で集団移転を実現した例がある。漁港がある原釜は、そうした中、住民を通じて見通しだ。

11月には伊豆の島で、音像が見守る丘陵地で、
今月から造成に着手。一部に畠があつたため農地
転用許可の法的手続きを
時間がかかったが、市側
が全面的にバックアップ
す。土地の買い取りも地

法要役員は堂上大蔵一千響】が激励演説を披露した。法要を終えた鈴木住職は、「三回忌が一区切りではないが、みんな少しずつ元気になってきていいようでホッ」としましたと話していた。

相馬市でも災害公営住宅（復興住宅）の建設は遅れており、3月中に入居できる一戸建てが40戸、年内入居可が46戸にとどまるという。集合型住宅で高齢者向けの復興住宅は4地区に48世帯分を建設。24世帯が入居済みで、残り24世帯もまもなくで、今後も順次建設していく。

入居する住民の中に、
は、摄取院と岩子地区に
ある豊山派長榮寺(茨木

元の地権者が大半だったため円滑に進んだ。住民はここで本格的な漁の再開にも備えていくといふ。

いる同霊場会に託さ

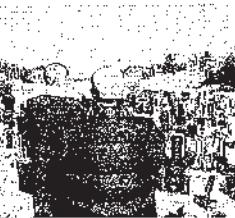
れ、靈場会参加寺院で
ある長谷寺・室生寺の
縁で攝取院に奉納され
ることになった。

堂内には仏画師・安
井妙洋氏とその門下生
が、諸尊仏画15枚と仏
画行燈16個を奉納。「心
に明かりがともるよう
に」(安井氏)願いを込
めた。

午後2時46分。攝取
院に集まつた僧侶約30

11日の震災三回忌、
境内で聖觀音像の開眼
供養が行われた福島県
相馬市の攝取院では、
大和路秀麗八十八面觀
音壇場会(会長=河野
良文・大安寺貢主)から
奉納された十二面觀
音像の開眼供養も本堂
で當まれた。

同尊像は震災犠牲者
の慰靈鎮魂のため、仏
師・石賀悟山氏が讃刻。
被災地支援を継続して



豊山派

相馬市の攝取院に
觀音像と仏画を奉納

靈場会寺院で真言律

日お一人供養すれば18

宗海龍王寺(奈良市)
の石川重元住職は「遠

く離れているから何も
できないと思わず、で

きることを積み重ねて
いくことが復興への近
道だと思います。阪神
大震災で亡くなられた
6千名以上の方々を一

方のご供養をお一人お
一人させていただけれ
ばありがたいと思つて
います」と話していた。

(写真)。その姿に「あ
りがとうございまし
た」と涙で声を詰まら
せながらお礼を述べる
地元の女性もいた。

年くらいで終わる。それが終わつたと思つて

いたら靈災が起つった。私自身が生きてい

る限り、亡くなられた

方がご供養をお一人お

一人させていただけれ

ばありがたいと思つて

います」と話していた。